

000
36
TAD
BRARY

昭和 61 年度

帰国研修員フォローアップチーム報告書

——同窓会活動調査——

JICA LIBRARY



1040264[2]

昭和 62 年 7 月

国際協力事業団
研修事業部

序 文

この報告書は、我が国の技術協力計画に基づき国際協力事業団が受入れてきた技術研修員に対するアフターケア事業の一環として、帰国研修員が各国で結成している同窓会の活動状況を調査するため、昭和61年7月17日から7月27日までの11日間、インドネシア、フィリピン、シンガポールの3ヶ国に派遣したフォローアップチームの業務報告である。

本報告書が、同窓会の活動状況、その諸問題、また事業団が各国で展開している技術協力事業との連携の可能性について、関係各位の一層のご理解を深める一助となり、今後の帰国研修員に対するアフターケア事業の改善に資することができれば幸いである。

なお、本件フォローアップ実施のためにご協力を賜った外務省及び現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館並びに関係者の皆様に深甚の謝意を表したい。

昭和62年6月

研修事業部

部長 岡 部 和 夫

目 次

はじめに

I 派遣チームの概要	1
1. 派遣目的	3
2. 団員構成	3
3. 調査日程	3
4. 主要面会者リスト	4
II 調査内容	5
1. 調査項目	7
2. 調査結果一覧	7
3. 同窓会活動助成にかかる提言	12
III 収集資料	15
1. インドネシア同窓会	17
2. フィリピン同窓会	17

国際協力事業団		
受入 月日	'87.10.15	000
登録 No.	16891	36
		TAD

I 派遣チームの概要

I 派遣チームの概要

1. 派遣目的

1986年10月に開催を予定している第1回帰国研修員同窓会代表者セミナー実施に先立ち、参加同窓会の活動の現況及びJICA事業との連携の可能性につき調査を行い、同セミナーの効率的な運営に必要な情報を収集すると共に、同窓会助成方針策定の参考とするものとする。

2. 団員構成

小畑 正比呂 団長 外務省経済協力局技術協力課課長補佐
 佐藤 由利子 団員 国際協力事業団・研修事業部管理課

3. 調査日程

次表1のとおり

表1

	月 日	曜日	(A M)	(P M)
1	7月17日	木	成田発(GA 873)	ジャカルタ着
2	18日	金	JICA事務所 表敬・打合せ	同窓会々長及び副会長との打合せ
3	19日	土	小畑団長、年次協議を終了し、同調査団に合流、大統領府技術協力局表敬	資料収集
4	20日	日	ジャカルタ発(C X 710 PR 504)	マニラ着
5	21日	月	JICA事務所表敬、打合せ	同窓会事務局訪問
6	22日	火	同窓会事務局関係者との意見交換	NEDA表敬
7	23日	水	同窓会日本語クラス見学	日本語講師との打合せ
8	24日	木	佐藤団員マニラ発(RR 503)	小畑団長帰国(JL 742) 佐藤団員シンガポール着
9	25日	金	JICA事務所表敬、打合せ、PSD表敬	同窓会事務局関係者との意見交換
10	26日	土	日・シ技術学院見学、日本語専門家との懇談	
11	27日	日	シンガポール発(JL 714)	成田着

4. 主要面会者リスト

(1) インドネシア

- Mr. Saptodarsono 同窓会々長（国防省システム開発課長）
Mr. Panarto Prawoto 同窓会副会長（公共事業省都市住宅総局総務課長）
Mr. Wahid Salim 大統領府技術協力局政府間技術協力課長

(2) フィリピン

- Mr. Bayani I. Gutierrez 同窓会々長（元フィリピン工科大学副学長）
Mr. Antonino Lasam 同窓会事務局長（フィリピン工科大学教授）
Ms. Ester Abitona 同窓会事務局次長（フィリピン国立統計局課長）
Ms. Violeta Arida 同窓会執行委員（国立科学技術院職員）
Ms. Virginia P. Davide NEDA スカラシップボード事務局長

(3) シンガポール

- Mr. Ho. Ker Young 同窓会々長（文部省カリキュラム開発研究所メディア・アドバイザー）
Mr. Ee Poh San 同窓会副会長（郵政省電気通信局幹部）
Mr. Foo Sack Jll 同窓会執行委員
Mr. Chai Soon 同窓会会計役
Mr. Lee Kat Kan PSD研修局次長
Ms. Tan Moi Ngh PSD研修担当職員

Ⅱ 調 査 内 容

II 調査内容

1. 調査項目

- (1) 各同窓会の概要（組織率、事務所の形態、組織形態）
- (2) 活動内容
- (3) 会員のリクルート及び名簿の整備状況
- (4) JICA事業との連携の可能性
- (5) JICAへの要望事項
- (6) JICA事務所よりのコメント

2. 調査結果

次表2の通り

表2 各国同窓会調査結果一覧

項目	インドネシア同窓会	フィリピン同窓会	シンガポール同窓会
会名	IKATAN ALUMNI "JICA" INDONESIA	Philippine - Japan Fellows Association (PHILJAPA)	JICA Course Participants' Association Singapore
結成年	1981年2月22日	1967年	1973年
会員数	100名 (うち帰国研修員100名) 全帰国研修員5,752名 = 0.017 (1.7%)	4,343名 (うち帰国研修員4,198名) 全帰国研修員数4,009名 = 1 (100%)	241名 (うち帰国研修員235名) 全帰国研修員1,683名 = 0.140 (14%)
同窓会長	Kolonei Saptodarsono 公共事業省システム開発局長 1980年データ処理コース参加	Dr. BAYANI I.GUTIERREZ 元TUP副学長 1973年以来会長を続ける。	Mr. Ho Ker Yong (Media Adviser, Curriculum Development Institute of Singapore) 1973-74年日本語研修コース参加
住所 (事務局)	c/o Mr. Panarto Prawato JL.R.Patah I/1 KEB BARU P.O.Box 413 KBY, Jakarta, (公共事業省所属の副会長気付)	Room 413, 4th Floor, IRTC Bldg, TUP, San Marcelino, Manila, TUP の中に無償協力で建てられ たIRTCビルの一室を事務局と して使っている。	c/o Maxwell Road P.O.Box 3436, Singapore 9054 従来は、JICA事務所に連絡先 を置いていたが今年より郵便のあ て先を独立した。
会の組織	General Chairman (1名) Chairman (2名)	President (1名) Vice President (1名)	Chairman (1名) Vice Chairman (1名)

項 目	インドネシア同窓会	フィリピン同窓会	シンガポール同窓会
会の組織	Secretary (1名) Vice Secretary (1名) Treasurer (1名) Vice Treasurer (1名) (計 7名) このうち、会長と副会長のうち1名が公共事業省所属 また、Treasurer 等3名が統計庁と若干の片寄りが見られる。 また、上記7名全員が1980年来日の研修員である。 遠藤事務所長のコメントによれば、各省庁ごとに同窓会を組織し、その上部組織(federation)としてインドネシア同窓会を作ってゆくのが適当だろう、とのことであった。	Secretary (1名) Assistant Secretary (1名) Treasurer (1名) Auditor (1名) 各省庁ごとの 支部長(Director) (16名) (計 22名) PresidentとSecretaryはTUP関係者 各省庁ごとに最近1名の支部長を置いていることにより、会員のリクルートや情報の伝達等が効率的に行われている。 また、会の活動内容ごとに、別添①のような7委員会が組織されている。	Secretary (1名) Committee Memben (7名) Auditor (2名) (計 12名) 毎年総会のたびに役員改選を行っている。 また、活動内容に応じ、上記12名のCommitteeの中に、さらにSub-Committeeが組織される。

PHILJAF Aにおける各種活動委員会

委 員 会 名	活 動 内 容
1. Internal Affairs and Legal Matlers Committee	会の規約の修正、組織の問題、その他会員名簿の整理等
2. External Affairs Committee	他国の同窓会との交流、日本から各種ミッションが来たときの会合のアレンジ
3. Scholarship Program Committee	奨学金制度の実施(奨学生の選考、送金、その後のフォロー等)
4. Project Research & Development Committee	各種新企画の立案とアレンジ
5. Sunshine Committee	会のメンバーの誕生祝い、結婚祝い、災害見舞、病氣見舞、葬式等のアレンジ
6. Tidbits	親睦会動のアレンジ
7. Editorial Staff	会報“PHILJAFAN”(年2回、各1,000部発行)の編集

項 目	インドネシア同窓会	フィリピン同窓会	シンガポール同窓会
活動内容	<p>1. 文化の夕べ 総会も兼ねて毎年1回実施している。 昨年度までは、内輪の会員のみに60名程度で実施していたが、本年度は、日本大使、JICA事務所長、所員、日本人専門家、イ国技協窓口機関関係者、また、同窓会員以外の帰国研修員にも幅広く声をかけ大規模に実施することを計画している。(7月24日、於、プレジデント・ホテル) 内容は、インドネシアの民族舞踊鑑賞、来賓によるスピーチ及びパーティ等。</p> <p>2. 科学技術セミナー 1984年度には、「文化の夕べ」の折に、日本人専門家による「ニュータウン構想」にかかるセミナーが開催されたが、その後は実施されていない。</p> <p>3. 会報“IKATAN-JICA” 創刊号を出した後は1号も出してない。</p>	<p>1. 月例会、緊急委員会、特別委員会</p> <p>2. 総会(Home-Comiry Get-Together) 毎年2~300名参加</p> <p>3. Educational Trip 会員会の親睦を深め、また見聞を広げるために実施している小旅行。 地方会員との交流にも役立っている。 実施は年2回、参加者は1回あたり3~40人 JICA事務所員や専門家、協力隊員なども招待している。</p> <p>4. Scholarship Program 貧しい会員の子弟のうち優秀者について選考を行い、毎年奨学金を助成している高校10名、大学10名の枠</p> <p>5. 会報“PHILJAPAN”の発行 年2回、各1,000部発行</p> <p>6. 日本語クラス 下記のa、bの2種類を実施 a. 派遣前研修員のためのpre-departure program, ・ JICA事務所から、研修員決定の連絡があることに実施(年10回程度、1回当り10~15名参加) ・ 月曜から金曜まで、1日3時間×5日間=15時間実施 ・ 場所はTUPの教室 ・ 講師は、フィリピン人(2名)、日本人(2名)のうちAvailableな人に頼んでいる。 ・ 内容はごく初歩的なものだが、受講した研修員からは、その後の日本語学習のベースになったと評価されている。 ・ この時、同窓会長等により日本生活に関するオリエンテー</p>	<p>1. 総会(Annual General Meeting) 42名参加</p> <p>2. Get-Together Dinner 16名参加</p> <p>3. 忘年会 108名参加</p> <p>4. Pulau Ubin Discovery (プロウビン島への日帰り小旅行) 会員の家族を含め約80名が参加した。宝探し、子供の美人コンテスト、釣り等、各種アトラクションを用意</p> <p>5. 機関誌“GANBARU”の発行 1985年度は休止</p> <p>6. Karaoke session 助成金の中からカラオケを購入し日本の歌を練習する会を開いている。</p> <p>7. 日本語クラスの開催 JICA事務所のあるRelcビルの一室を借りて、毎水曜日の夜実施している。 講師は、会長のHo氏 参加者帰国研修員を中心に約20名。</p>

項 目	インドネシア同窓会	フィリピン同窓会	シンガポール同窓会
会の活動		<p>セッションも同時に実施されている。</p> <p>b. 一般クラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国研修員、学生、教師、ビジネスマン等一般の人を対象に実施 ・ 土曜の夜8時間ずつ20週間(60時間) ・ 参加料は無料 ・ 通常、参加者は20名程度、申し込みが多い時には数クラスに分けて実施する。 ・ 場所及び講師はaと同じ ・ テキストは、各種日本語教材からフピーして使っている。 <p>7. セミナーの開催</p> <p>本年5月7日NEDAに派遣されている平川専門家(統計学)を講師にして統計セミナーを開催した。参加者は30名程度、JICA側からも宮本部長が参加、今後毎年このような技術セミナーを開催する計画である。</p> <p>また、1974年には全帰国研修員を対象に“The Effectiveness of the Training Program”と題するセミナーを開催し、約600名の会員が参加した。この結果は報告書にもまとめられている。その他、1984年にもマニラ在任の帰国研修員を対象とした同じテーマのアンケート調査を実施しており、同窓会としてはこのように、日本での研修成果の測定と事業改善への協力を積極的に行っている。</p> <p>8. カレンダーの送付</p> <p>年末にはクリスマスカードを兼ねたカレンダーを全同窓会員に送付している。あて名書きは幹部会員が手分けして行う。</p> <p>9. その他</p> <p>日本からの各種ミッション(ex. 藤尾ミッション)主催の</p>	

項目	インドネシア同窓会	フィリピン同窓会	シンガポール同窓会
会の活動		パーティ等にも積極的に参加している。	
会員のリクルート及び会員名簿の整備状況	<p>今後は各省庁に1名ずつ連絡役を置き、できるだけ多くの帰国研修員の加入を呼びかけることを計画している。</p> <p>なお、帰国研修員向けに加入を呼びかけるパンフレットが作成されている。</p>	<p>各省庁にあるchapterの連絡役が新しい帰国研修員をリクルートしている。</p> <p>会員加入にあたっては、“Certificate of Congratulatory” “Oath of office” “会員証”等が手交される。またこの時点で“Personal Data”を記入し、ファイルされる。</p>	<p>Committee members が中心となりリクルートしている。</p> <p>会員名簿はコンピュータにインプットされている。</p>
JICA事業との連携の可能性	<p>1. 研修員の来日前ブリーフィングや日本語研修については、今まで可能性を検討したことはあるが場所の問題がネックとなっている。</p> <p>それが解決すれば積極的に実施したい。</p> <p>2. 公開セミナー(都市計画)の実施については、是非とも積極的に協力してゆきたい。</p>	<p>1. 帰国研修員名簿の整備については、多大な労力を要するため、そのための謝礼等を支出してほしい。</p> <p>また、名簿の整理のため、新聞広告を利用するものも一案と思われる。</p> <p>また、新規の帰国研修員名簿をJICA又はNEDAから毎月流すようにしてもらいたい。</p> <p>2. 公開技術セミナーには積極的に協力したい。</p> <p>3. 協力隊員や専門家が希望すれば、タガログ語のクラスを開催したい。</p> <p>4. 各国同窓会を結ぶ同窓会の federation を結成してはどうか。</p>	<p>1. 研修員の来日前ブリーフィング及び日本語研修については、今後、積極的に実施したい。</p> <p>2. 日本人専門家等との接触の機会を増やしてゆきたい。</p> <p>3. シンガポールで公開技術セミナー等実施する場合は、積極的に協力したい。</p>
JICAへの要望	<p>1. 同窓会員であるメリットを設定してほしい。</p> <p>そうすれば会員も自動的に増えると思われる。</p>	<p>1. refresher Course を開設してほしい。</p> <p>2. 車輛を一台貸与してほしい。</p> <p>3. TUPの敷地内に“Japan-Philippine Culture Center”を設立したい。</p> <p>このセンターにおいては、日本語クラス、日本文化紹介、タガログ語のクラス等を実施したい。</p>	<p>1. 帰国研修員に対する技術的なフォローアップ(例、文献送付等)をもっと充実してほしい。</p>

項 目	インドネシア同窓会	フィリピン同窓会	シンガポール同窓会
事務所よりのコメント	事務所としては同窓会に対し、次の3点の役割を期待している。 1. 情報ソースとしての役割 (ex. 新規プロジェクトの発掘等) 2. プロジェクトの終了後、現地サイドで円滑な運営を続けてゆくための promoter の役割 (特に c/p 等) 3. JICA 事業を波及してゆくための媒体としての役割	同窓会事業の重要性は、認識しているものの、かつての技協+研修であった時代と異なり同窓会への接触にさける時間は少ない。 同窓会側のより多くの Contact を求める要求に man-power 上からもなかなか対応できない。 また、「ダメモト」精神でいろいろな要求があるところ、時にはジビアに対応せざるをえない。	なかなか同窓会と接触するための時間がさけない。

3. 同窓会活動助成にかかる提言

(1) (メリットの設定)

各国における帰国研修員の同窓会への加入を促進し、同窓会活動を活性化するためには、同窓会活動を活性化するためには、同窓会に加入している者に対するメリットを設定することが必要と思われる。例えば、カレンダーの送付、各種文献の送付、技術情報の提供などについて、同窓会々員に優先的に実施すれば、会の組織率は自動的に高まるのではないだろうか。

(2) (助成金査定方法の改善)

従来助成金の査定は、①自己資金率、②会員一人当りの助成額への2つの要素を勘案して行っており、助成金の使途内容については各同窓会の自主性に委ね、十分な審査を行ってはいなかった。

しかし、今後、JICAとの連携事業(帰国研修員リスト整備、来日前研修員へのオリエンテーション、日本語研修等)を奨励してゆくに当たっては、事業内容別にメリハリをつけた助成を行う必要があると思われる。

(3) (派遣専門家や協力隊員等との交流の促進)

研修員は帰国後も現地にいるJICA関係者、特に同じ技術分野の専門家や協力隊員との接触を望んでおり、これは専門家や協力隊員側にとっても、現地での人脈づくり等に大いにメリットのあることと思われる。については在外事務所等を通じ、両者の交流を積極化するよう働きかけてゆく必要があると思われる。

(4) (帰国研修員名簿の整備)

フォローアップ事業強化の中で最も必要となるのが整備された帰国研修員名簿であることに

鑑み、同窓会等の協力を得つつ、次のような方法で整備を進めてはどうかと思われる。

a. 名簿改訂作業にかかる経費助成

名簿の改訂作業を同窓会に委託する場合には、その経費を原則としてJICAから助成することとする。

b. 国別、分野別名簿の作成

現在、すべての帰国研修員を網羅した国別の帰国研修員名簿が存在しないところ、早急に作成し、これをもとに改訂作業を進めることとする。

また国別の各分冊の中をさらに分野別に整理し、組織ごとのフォローを容易にすると共にJICAの関係各事業部においても活用し易い形態とする。

(5) (同窓会紹介パンフレットの作成)

来日研修員用、及び同窓会未加入の帰国研修員用に同窓会紹介パンフレットを作成し、同窓会への加入及び未結成国の場合は同窓会の結成を勧奨すべきでないかと思われる。

(6) (国別の対応)

国ごとに政治状況、地理的状況、人の気質等が異なるため、いくつかのタイプに分けた同窓会事業強化の青写真を作成すべきではないかと思われる。

III 收 集 資 料

〈 収 集 資 料 リ ス ト 〉

1. インドネシア同窓会

- (1) インドネシア同窓会規約
- (2) 同窓会新入会員用リーフレット

2. フィリピン同窓会

- (1) フィリピン同窓会会員証
- (2) 同窓会入会の際の誓約書
- (3) 同窓会員データ・フォーム
- (4) 同窓会員名簿表紙・中身
- (5) 同窓会員に発出しているクリスマスカード（表と裏）
- (6) 同窓会主催日本語クラス・テキスト 表紙・中身
- (7) 同窓会主催日本語クラス修了証書
- (8) 同窓会実施奨学金プログラムの概要
- (9) 奨学金プログラム対象者への証書
- (10) 同窓会実施「JICA研修プログラムの有効性にかかる調査」調査表・表紙と調査依頼文書
（1983）
- (11) 同窓会主催セミナー「応用統計学」プログラム（1986）
- (12) 同窓会主催セミナー「応用統計学」修了証書
- (13) 第1回帰国研修員全国セミナー報告書 表紙と中身
- (14) フィリピン日本同窓会連合（PHILFEJA）10周年記念大会プログラム（1986）
（ JICA同総会はこのPHILFEJAの構成員の1つであり、Gutierrez会長は、この
連合の副会長を務めている。 ）

JICA Alumni Association of Indonesia

In order to make a good cooperation among JICA Alumni Association in Indonesia, we make statutes of JICA Alumni Association of Indonesia.

Chapter I

1. The Organization's name is JICA Alumni Association of Indonesia and the abbreviation is IKA JICA INDONESIA.
2. The Organization started from February 22, 1981.
3. The Organization centered in Jakarta.

Chapter II

1. The Organization based on the fundamental philosophy and constitution 1945.
2. The characteristics of this organization is togetherness in order to make a good cooperation.

Chapter III

P U R P O S E

1. To help technical development, economic, social and Indonesian culture through technical education and activities.
2. To make a good cooperation among members.
3. To give information to the candidates who get training in Japan.
4. To give a good cooperation which is needed between JICA and members.
5. To make a good friendship between Indonesia and Japan.

Chapter IV

The members of this Organization are :

1. Someone who have got training in Japan through JICA (OTCA)
2. a. Someone who have gone to Japan who are invited by JICA.
b. JICA staff or Japanese Embassy staff concerning with Japanese technical cooperation.
c. Japanese experts who are assigned in Indonesia.

Chapter V

1. Registration Fee must be paid when someone become a member of the Organization.
2. Contribution must be paid once a year.

Chapter VI

Committee members consist of :

- a. Chairman
- b. Vice Chairman
- c. Secretary
- d. Treasurer.

Chapter VII

1. Meeting is held once a year (at least)
2. The result of the meeting is legal if it is proved by the members.
3. Meeting of Committee members can be held once in a while

Chapter VIII

1. The Capital of the organization consist of :
 - a. Registration Fee
 - b. Contribution
 - c. Others.
2. The usage of the capital is used for the purpose of Organization
3. It must be known by the Chairman and Treasurer.

Chapter IX

The statutes can be changed by the members in the meeting who presented by 3/4 of the members.

Chapter X

1. The resignation of organization can be decided in the meeting
2. The meeting noted the capital organization.

Seperti diketahui atas prakarsa rekan-rekan alumni yang baru kembali studi dari Jepang pada akhir bulan Desember 1980 telah dicetuskan suatu ide untuk membentuk organisasi yang merupakan wadah bagi para alumni yang pernah melaksanakan studi, mengikuti suatu latihan atau seminar di Jepang dalam rangka kerja sama antara Pemerintah Indonesia dan Jepang yang diselenggarakan oleh JICA (OTCA).

IKA JICA INDONESIA

Ide yang baik tersebut selanjutnya dibahas dalam rapat para alumni pada tanggal 22 Februari 1981 bertempat di Diklat Usaha Perikanan (AUP) Pasar Minggu, Jakarta Selatan, dan dengan secara kekeluargaan dan musyawarah dibentuk secara resmi suatu organisasi yang selanjutnya diberi nama Ikatan Alumni JICA Indonesia atau disingkat dengan "IKA JICA INDONESIA".

Dalam rapat tersebut dibentuk pula Pengurus Harian yang diberi tugas untuk mengendalikan pelaksanaan organisasi, pembuatan anggaran dasar dan menyelenggarakan program-program kegiatan yang bermanfaat bagi para anggota.

Suatu hal yang menggembarakan bahwa dengan berdirinya IKA JICA INDONESIA, telah diterima pula ucapan-ucapan selamat dari organisasi alumni negara-negara lain, hal ini menunjukkan bahwa di negara-negara lainpun telah dibentuk pula suatu organisasi yang sama.

Pada usia yang masih muda ini IKA JICA INDONESIA belum dapat menyelenggarakan program kegiatan-kegiatan yang bermanfaat bagi anggota-anggotanya, mengingat terbatasnya tenaga maupun dana tersedia. Pada tahap sekarang IKA JICA INDONESIA masih menitik beratkan ke-

giatannya pada pembenahan organisasi, antara lain penyusunan anggaran dasar, pendaftaran para alumni yang tersebar diseluruh Indonesia, rencana penerbitan bulletin IKA JICA INDONESIA, menyelenggarakan pertemuan-pertemuan kekeluargaan dan sebagainya.

Kita semua tentunya mengharapkan agar IKA JICA INDONESIA dapat meningkatkan dan mengembangkan program kegiatannya sesuai dengan pokok-pokok yang telah digariskan dalam Anggaran Dasar, dan ini adalah suatu tantangan bagi kita untuk memberikan andil dan sumbangan kepada Pembangunan Nasional.

Dalam rangka inilah IKA JICA INDONESIA memerlukan saran-saran dari para anggota untuk menyempurnakan program kegiatan yang disamping untuk membina Keluarga Besar para Alumni juga dapat menyumbangkan karya yang positif bagi Pembangunan Nasional.

Kita semua menyadari bahwa keberhasilan IKA JICA INDONESIA dalam melangkah maju, tidak hanya tergantung pada keaktifan pengurus saja, akan tetapi yang lebih penting adalah adanya partisipasi, bantuan serta sumbangan pikiran yang kreatif dari para anggota.

Sebagai realisasi salah satu program kegiatan maka pada tanggal 10 September 1982 diselenggarakan Malam Pertemuan Kekeluargaan di "President Hotel" Jakarta.

Pertemuan tersebut diharapkan dapat lebih mempererat hubungan antara para alumni dan sekaligus mengajak para alumni di seluruh Indonesia untuk bersama-sama bernaung dalam wadah IKA JICA INDONESIA.



Ikatan Alumni "JICA" Indonesia
(DEDAKKAN UNTUK ANGGOTA)



Philippine-Japan Fellows Association
c/o Philippine College of Arts and Trades
Ayala Blvd., Manila

We It Known That

CAMILO D. VILLENA

74 10th AVE. CUBAO, QUEZON CITY

having complied with all the requirements for Membership as provided for in the Constitution and By-Laws of the Philippine-Japan Fellows Association (PHILJAF), is registered as

Member

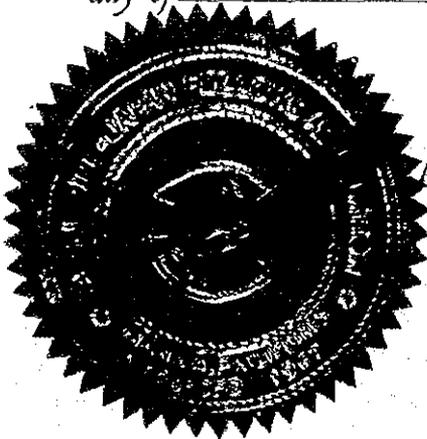
In witness whereof, this Certificate No. 1083 is granted under the seal of the Association, at Manila, Philippines, this 6th day of JANUARY, 1979.

President

Attested:

Executive-Secretary

Treasurer



Philippine-Japan Fellows Association
2133 Taft Avenue, Manila



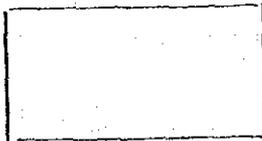
Oath of Office

I, _____ of _____
_____ having been elected to the position of _____
_____ hereby solemnly swear that I will well and faithfully
discharge to the best of my ability the duties of my present position and all
others I may hereafter hold in the *Philippine-Japan Fellows Association*, that I
will abide by the Constitution and By-Laws of said organization and that
I impose this obligation upon myself voluntarily, without mental reservation
or purpose of evasion.

SO HELP ME GOD.

Subscribed and sworn to before me this _____ day of _____
_____, 197____, A.D., at _____

Philippines.



Residence Certificate Class _____
No. _____
Issued at _____
Date _____

PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION
Integrated Research & Training Center
Room 413, T.U.P. Compound, Manila

PARTICIPANTS CURRENT DATA

Please help us update our records by notifying us of changes in your address and other pertinent information.

Name: _____
(in print)

Address :
Residence: _____ Tel. No.: _____
Office: _____ Tel. No.: _____

Field/s of Training in Japan:

Name: _____

Place: _____

Inclusive Dates: _____

Name: _____

Place: _____

Inclusive Dates: _____

Name: _____

Place: _____

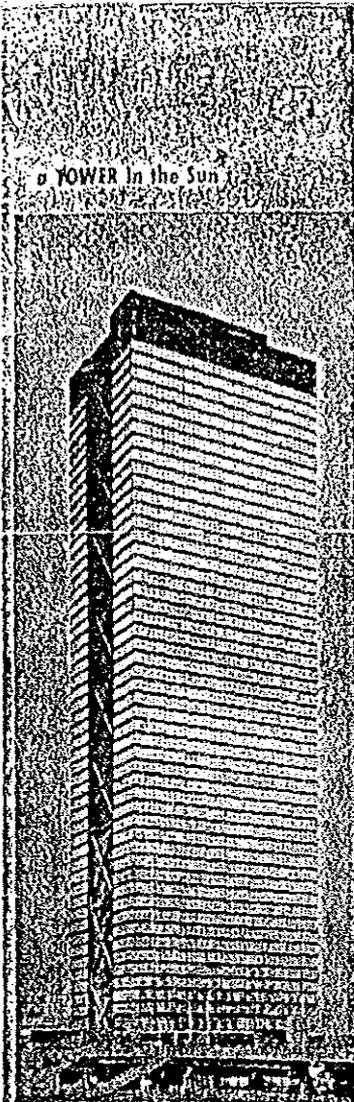
Inclusive Dates: _____

Educational Attainment (Highest): _____

Other Information: _____

_____ Date

_____ Signature



POWER in the Sun

MAJESTICALLY and almost imperiously, towering 55 floors high into Tokyo's heavily polluted skies, is Japan's tallest skyscraper, the Mitsui Building, which houses the main offices of the Japan International Cooperation Agency. In its 45th to the 48th floors. Situated in Shinjuku, sub-center of the world's largest city, the imposing 3-basement edifice is 210 meters high and built at a cost of 20 billion Yen or roughly seventy million US dollars. (Around 6,000 workers are employed in 925 corporations in this superstructure and another 20,000 people do business here every day. This means that the building is a small city by itself.

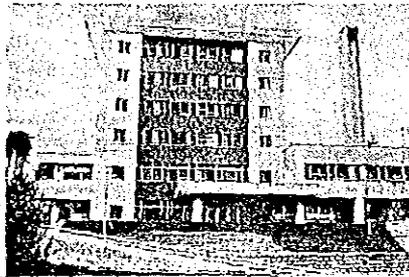


PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION

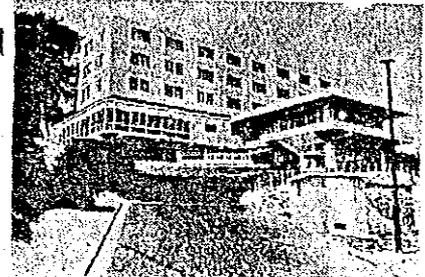
participants'
DIRECTORY

Technical Cooperation Program of Japan in the Philippines

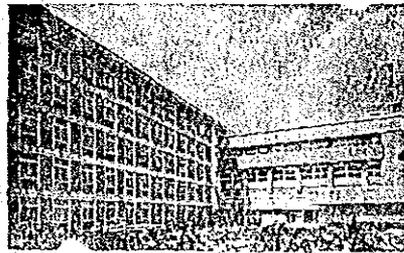
TRAINING CENTERS OF THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY



Osaka International Training Center



Hyogo International Training Center



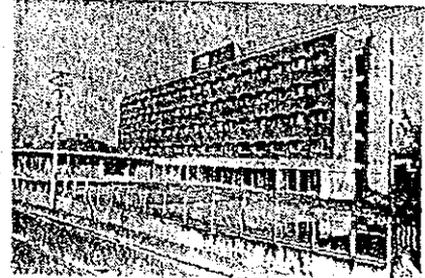
Tokyo International Center



Uchihara Agricultural Training Center



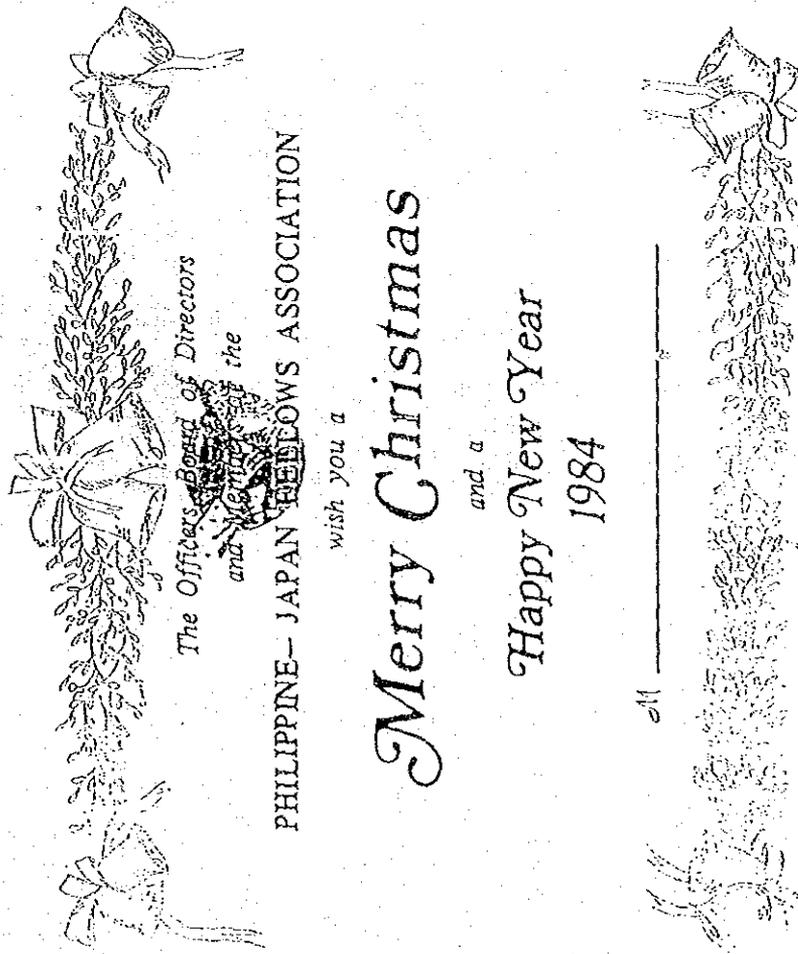
Kanagawa Fisheries Training Center



2-(4) 同窓會員名簿中身

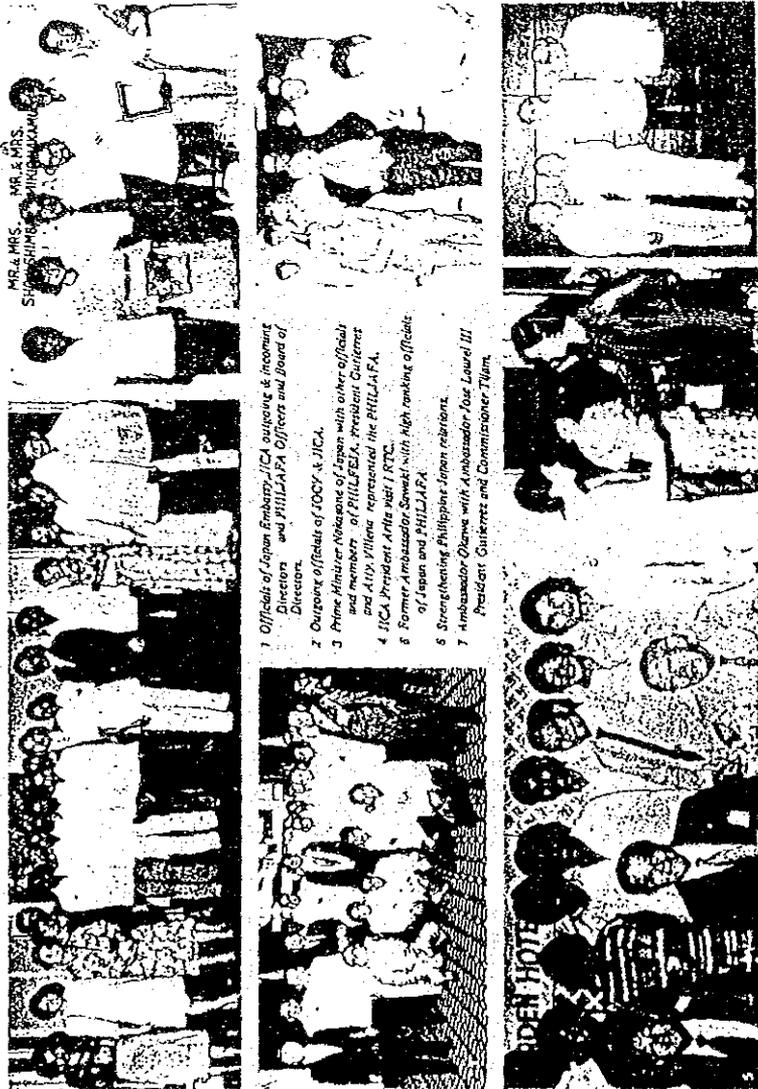
Name and Home Address	Position and Office Address	Field of Training, Place and Date
Gangat, Albino	Bureau of Fisheries	Handicraft 1963
Garcia, Mario 24 Barcelona St., Merville Park, Parañaque, Rizal	Asst. Chief, Sawmills and Licenses Division Bureau of Forestry, Quezon City	Forest Management Tokyo, Japan 1961
Gatmaltan, Benjamin	Bureau of Animal Industry	Animal Disease 1962
Gonzales, Felix R. No. 12 F. Anselco St. Bagong-Ilog, Pasig, Rizal	Director of Fisheries Intramuros, Manila	Colombo Plan-Fisheries (Fish Processing) Technology, Japan; 1961
Gonzalo, Benito C. 6 Venus St., Banlat Tandang Sora, Quezon City	Actg. Chief, Agriculture Engineering Division Bureau of Plant Industry, Manila	Farm Machinery Asia Bank, Kaikan & Kubota, Sakai Plant 1962
Gracia, Demetrio M. 159 A-1 Rd. 3, Project 6, Q.C.	Bureau of Fisheries Chief, Fish Survey & Stocking Section 1961	Freshwater Fish Culture & Propagation Research Course Freshwater Research Laboratory, Tokyo 1966
Guevara, Gloria 10 Paris St., Ignatius Village	Supervising Fishery Technologist Philippine Fisheries Commission	Marine Product Processing Tokai Regional Fisheries Laboratory, Tokyo 1961
Guevara, Anacieto		Rice Cultivation Research Course 1967
Guzman, Antonio B. de 588 J. Rizal St., Sto. Niño, Marikina, Rizal	Agricultural Cooperative Officer APC, Pasig, Rizal	Agricultural Cooperatives Institute for the Development of Agricultural Cooperatives in Asia, 24-9-6 Chome Funabashi, Stegayaku Tokyo, Japan 1972
Hermoso Elpidio C. Atehanistan St., Better Living Subdivision	Appraiser Development Bank of the Philippines Makati, Rizal	Rice Cultivation Konosu, Saitama, Japan
Hernandez, Alfredo 692 San Andres, Manila	Bureau of Plant Industry	Observation of Vegetable Seed Production, Processing & Certification 1970
Hernandez, Melissa P. 989-C Aurora B rd., Quezon City	Research Veterinarian Bureau of Animal Industry, Mandaluyong, Rizal	Animal Health-Tissue Culture Technique National Institute of Animal Health Kodaira-shi, Japan May 1 to October 31, 1973
Hugo, Antonio P.		Coastal Fisheries Course 1967
Ico, Antonio G. 1060 San Lorenzo St Villasis, Pangasinan	Acting Training Officer Bureau of Agricultural Extension Elliptical Road, Dillman, Quezon City	Farm Machinery Utilization Uebihara-Machi, Ibaraki-Kin April 8, 1973-Jan. 27, 1974

2-5) 同窓会員に発出しているクリスマスカード(表)
 これにより帰国研修員の住所をフォローしている



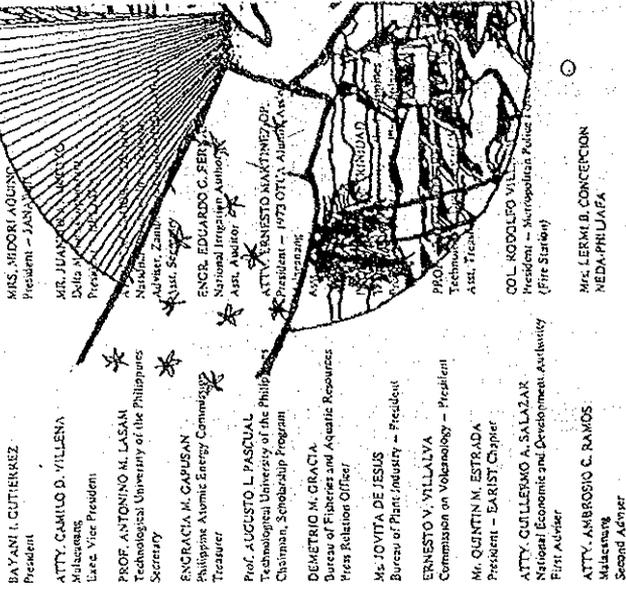
CALENDAR FOR 1984

JANUARY		JULY									
M	T	W	T	F	S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31						31					
FEBRUARY		AUGUST									
M	T	W	T	F	S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
MARCH		SEPTEMBER									
M	T	W	T	F	S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31						31					
APRIL		OCTOBER									
M	T	W	T	F	S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31						31					
MAY		NOVEMBER									
M	T	W	T	F	S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31						31					
JUNE		DECEMBER									
M	T	W	T	F	S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31						31					



- 1 Officials of Japan Embassy, JICA outgoing & incoming Directors and PHILJAPA Officers and Board of Directors.
- 2 Outgoing officials of TOCOY & JICA.
- 3 Prime Minister Nakasone of Japan with other officials and members of PHILJAPA, President Gutierrez and Atty. Villena represented the PHILJAPA.
- 4 JICA President Arita with IRTC.
- 5 Former Ambassador Sasaki with high ranking officials of Japan and PHILJAPA.
- 6 Strengthening Philippine-Japan relations.
- 7 Ambassador Obana with Ambassador Jose Laurel III, President Gutierrez and Commissioner Tiam.

PHILIPPINE - JAPAN FELLOWS ASSOCIATION
OFFICERS





THE PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION

in cooperation with

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

sponsors the

CRASH LESSONS IN NIPPONGO

for

Prospective J I C A Participants of Technical Training Programs in Japan

BASIC JAPANESE LESSON

INTRODUCTION: ...

Sa, minasan, Nihongo no benkyo o hajimemasho.
(Everybody, let's start our study of Japanese)

NIHONGO NO KISO (Japanese grammar)

NIHONGO NO HATSUON (JAPANESE PRONUNCIATION)

a	i	u	e	o	kya	kyu	kyo
ka	ki	ku	ke	ko	sha	shu	sho
sa	shi	su	se	so	cha	chu	cho
ta	chi	tsu	te	to	nya	nyu	nyo
na	ni	nu	ne	no	hya	hyu	hyo
ha	hi	hi	he	ho	mya	myu	myo
ma	mi	mu	me	mo	rya	ryu	ryo
ya	(i)	yu	(e)	yo	gya	gyu	gyo
ra	ri	ru	re	ro	jya	jyu	jyo
wa	(i)	(u)	(e)	o	hya	hyu	hyo
ga	gi	gu	ge	go	pya	pyu	pyo
sa	ji	zu	ze	zo			
da	ji	zu	de	do			
ba	bi	bu	be	bo			
pa	pi	pu	pe	po			

1. Boin (Long and short vowel sound)

takei, tookei, yuki, yuuki,
ojisan, ojiisan, obasan, obaasan,
koko, kookoo, doro, dooro

2. N no hatsuen (pronunciation of n)

Onna, undo, antei, shinkun, sanpo, bunmei
sankai, kangaemasu)

3. Nijuushiin (double consonant)

otto-otto, shite imasu- shitte imasu,
hakkiri, kippu, motto, issai

THE PHILIPPINES-JAPAN CULTURAL INSTITUTE
in cooperation with
THE PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION
and
PCAT COLOMBO PLAN (JAPAN) SCHOLARS ASSOCIATION
award this

Certificate of Attendance

to

_____ of the _____ for having
attended _____ hours of the Basic Course in NIHONGO held at the
Technological University of the Philippines Practical Arts Center in San
Marcelino, Manila from _____

CARLOS Q. TRINIDAD
Pres. PCATPISA

MUTSIAHIKO MIKI
Chairman, PICI

BAYANI I. GUTIERREZ
Pres. PHILJAPA

PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS' ASSOCIATION
SCHOLARSHIP PROGRAM

I. CRITERIA IN THE SELECTION OF SCHOLARS:

1. Must be a legal dependent of a regular member of the Philippine-Japan Fellows Association.
2. Must be nominated by a regular member or a recognized chapter of PHILJAPA.
3. The applicant must have at least a general average of 85% in his/her last year in high school or 85% from the intermediate grade if applying for a high school grant. In the case of applicants for college other than entering first year students, he/she must have an average of at least 2.50 or equivalent.
4. Where there are more applicants than the number of scholars to be accepted during the term, priority is given to an applicant whose parents have a joint income as categorized below:
 - a. 1st PRIORITY - Those receiving monthly salaries of ₱3,000.00 and below
 - b. 2nd PRIORITY - Those receiving monthly salaries of ₱3,000.00 and above but not to exceed ₱4,000.00
 - c. 3rd PRIORITY - Those receiving monthly salaries of more than ₱4,000.00
5. Preference shall be given to those who will pursue engineering, technical, vocational and technological courses, including those with emphasis on science and technology
6. Preference will be given to an applicant who belongs to a family of three (3) or more children.
7. Must not be a recipient of other scholarship grants of any kind whether government or private institutions
8. Must be of good moral character
9. Scholarships will be granted only once to any qualified member of the PHILJAPA
10. Must not be gainfully employed

II. TERMS FOR THE SCHOLARSHIP GRANT

A. For College Applicants:

1. Must carry a minimum of 18 units load per semester of the course he/she will pursue. A xerox copy of the certified registration form should be submitted to the Scholarship Committee for evaluation.
2. Must maintain a general average grade of not lower than 2.50 or its equivalent during the semester and must not have any failing mark.
3. The grantee is entitled to a minimum of ₱400 or to a maximum of ₱600.00 per semester for tuition fee, plus a book allowance of ₱300.00
4. Summer terms are not included in funding of scholarship grants.
5. Scholarships granted to students enrolled in schools using the trimester schedule shall be limited to a total amount of ₱600.00 per term.

B. For High School Applicants

1. The qualified applicant can enroll in any institution, whether private or public
2. Must maintain a general average grade of 85% in all academic subjects with no failing marks in any subject
3. The grantee is entitled to a total amount of ₱600.00 per schoolyear for school fees, books, etc.

III. EVALUATION OF THE GRANTEE

1. Grades must be submitted to the Scholarship Committee one month after the close of the term to determine eligibility for renewal of scholarship grant.
2. The Association reserves the right to terminate the scholarship to any grantee who is found to be involved in any drug addiction or other criminal cases.

The Scholarship Committee

Adopted: June 14, 1986



PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION

% Technological University of the Philippines

Ayala Boulevard, Manila

*Upon recommendation of the Committee on Scholarship
the Board of Directors of the Philippine-Japan Fellows
Association hereby awards this*

Certificate of Scholarship

to

*for having qualified as a bonafide scholar in accordance
with the rules and regulations governing the Scholarship
Program of the Association.*

*Awarded this day of
19 . Metro Manila, Philippines.*

BAYANI I. GUTIERREZ

President



A SURVEY QUESTIONNAIRE

On the Effectiveness of the
JICA Training Programs
in the Philippines

Greeting! How are you today?

We hereby announce that the PH...
now has... of the interested...
Philippines on...
Research and...
formation...
1980...
This year PHJFA has launched...
An... Technological University of the Philippines
...
IRTG Bldg., Ayala Blvd., Ermita, Manila
utilized by the guests and the direct imp...





PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION
c/o Technological University of the Philippines
Manila

5 July 1983

Dear JICA Alumnus,

Greetings! How are you today?

We are pleased to announce that the Philippine-Japan Fellows Association (your own PHILJafa) now has its own office at the Integrated Research and Training Center in the compound of the Technological University of the Philippines on Ayala Blvd. cor. San Marcelino Street, Ermita, Manila. The completion of the Integrated Research and Training Center (IRTC) at the TUP, for which PHILJafa had a hand in the negotiations with the Japanese Government, made this possible. The office features a mini library and serves as an information center on PHILJafa affairs. You can now get in touch with the other members, numbering 4,000 through this office.

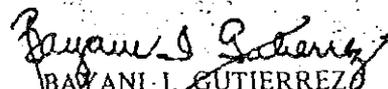
This year, PHILJafa has launched another project, a survey on "The Effectiveness of the JICA Training Program in the Philippines: An Evaluation". It hopes to find bases for the continuance, the re-structuring and/or re-directing training grants to relate them more closely to the country's development requirements. This can be done by determining how earlier training schemes/grants have been utilized by the grantees and the direct impact of their acquired expertise upon their work on their return.

Please find enclosed a copy of the survey questionnaire which we are requesting you to fill out and mail back as soon as possible. Please find time from your busy schedule to provide us information since this survey will help determine the future of prospective grants and training schemes in Japan.

May we feel confident that your deep concern for the future of these grants can assure us of your cooperation.

We look forward to hearing from you.

Very truly yours,


BAYANI I. GUTIERREZ
President

PHILJAJFA OFFICERS AND BOARD OF DIRECTORS

President Mr. Bayani I. Gutierrez
 Executive Vice-President Atty. Ernesto P. Martinez
 Secretary Mr. Antonio Lasam
 Asst. Secretary Mrs. Ester F. Abitona
 Treasurer Ms. Engracia Gapusan
 Auditor Mr. Quintin Estrada, Jr.
 P R O Col. Rodolfo Villavicencio
 Chairman, Scholarship Program Mrs. Lermey Concepcion
 Chairman, Internal and Legal Affairs Atty. Ernesto P. Martinez
 Chairman, External Affairs Mr. Augusto Pascual
 Chairman, Sunshine Committee Mrs. Midori Aquino
 Metro Manila Liaison Mr. Feliciano K. Reyes
 International Liaison Atty. Pio Abarro
 President, NCSO-JAJFA Mrs. Ester F. Abitona
 President, JANAPHIL Mrs. Midori Aquino
 President, NIST-JAJFA Mrs. Violeta Arida
 President, DEL-JAJFA Mr. Juanito Arroyo
 President, PJF-JAJFA Mr. Edgardo Cadlum
 President, NEDA-JAJFA Mrs. Lermey Concepcion
 President, EARIST-JAJFA Mr. Quintin Estrada
 President, SPI-JAJFA Mr. Manuel Tapia
 President, PCAT-CPJSA Mr. Carlos Trinidad
 President, COMVOL-JAJFA Mr. Ernesto Villaiva
 President, MFF-JAJFA Col. Rodolfo Villavicencio
 President, MSPI-JAJFA Ms. Nady Villostas

Atty. Ambrosio G. Ramos
 Adviser

FIRST TRAINING PROGRAM

on
A P P L I E D S T A T I S T I C S

Sponsored by the

NATIONAL CENSUS & STATISTICS OFFICE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION

in cooperation with the

PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION

and

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

O P E N I N G P R O G R A M

May 7, 1986
 1:00 P.M.

Integrated Research and Training Centre
 TUP Compound, Ayala Blvd.
 Manila

Mr. TAKEHO SAKATA
 (This serves as an invitation)

NCSO-JAFA CHAPTER

OFFICERS

President Mrs. Ester F. Abitona
 Vice-President Ms. Lourdes Homecillo
 Secretary Ms. Hilda O. Ballestin
 Treasurer Mrs. Lourdes Q. Azarraga
 P R O Mr. Dario Luna
 Auditor Mr. Pedro Viernesto

MEMBERS

Ms. Socorro Abejo
 Mr. Valentino Abuan
 Mr. Rodolfo Ballton
 Ms. Rosalinda P. Bautista
 Ms. Marietta Bongco
 Mrs. Emma Franco
 Mr. Rodolfo Gumabong
 Mrs. Estela De Guzman
 Mr. Luis Jacildo
 Mrs. Salvacion Ladesma
 Mr. Antonio Medina
 Ms. Evelyn Ogbinar
 Mrs. Eliza Quizon
 Mrs. Consuelo Roxas
 Ms. Ma. Elena Salmon
 Mr. Baltrunico Tapia
 Ms. Rosalinda Venzuela
 Mr. Claro B. Villarosa

CONSULTANTS

Mrs. Nelia R. Marquez
 Mrs. Lilia H. Constantino

P R O G R A M M E

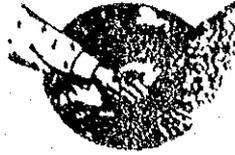
1:00 - 1:30 Registration
 1:30 - 2:30 Opening Ceremonies
 Pambansang Awit Mr. Dario Luna
 Invocation Mrs. Nelia R. Marquez
 Opening Remarks Asst. Executive Director
 NCSO
 Presentation of Participants. Mrs. Ester F. Abitona
 President, NCSO-JAFA
 Course Orientation Ms. Hilda O. Ballestin
 Closing Remarks Mr. Mziya Miyamoto
 JICA Resident Representative

E M C E Mr. Pete Viernesto

Training Coordinators:

Ms. Hilda O. Ballestin
 Mrs. Lourdes Q. Azarraga

S N A C K S S N A C K S S N A C K S



NATIONAL CENSUS AND STATISTICS OFFICE-JAFA

in cooperation with

The Philippine - Japan Fellows Association

and

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

awards this

CERTIFICATE OF TRAINING

to

for having successfully completed training hours on

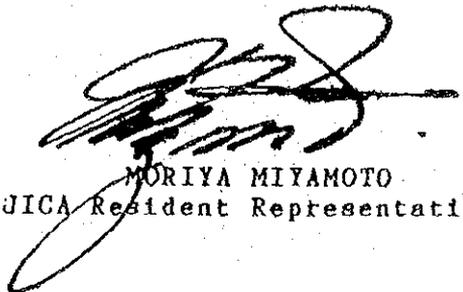
APPLIED STATISTICS

held at NCSO, Manila from May 7 to June 20, 1986.

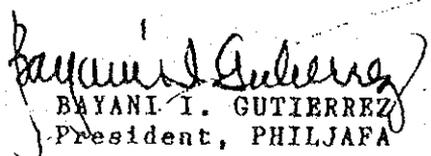
Issued this 27th day of June nineteen

hundred and eighty-six at

Manila, Philippines.


MORIYA MIYAMOTO
JICA Resident Representative


ESTER F. ABITONA
NCSO-JAFA Training Director


BAYANI I. GUTIERREZ
President, PHILJafa

FIRST NATIONAL SEMINAR
OF RETURNED PARTICIPANTS
FROM JAPAN

March 18, 19, 20, 1974, NSDB Auditorium, Manila

Sponsored by the



PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION

PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION
2133 Taft Avenue, Manila

March 20, 1974

The Delegates to the
First National Conference/Seminar
of Returned Participants from Japan

Gentlemen:

On behalf of the Conference Executive Committee, I have the honor to submit herewith the Draft Summary Report on some of the Highlights of the Conference/Seminar of Philippine Government Personnel who had undergone and completed training or study in Japan conducted at Manila on March 18, 19 and 20, 1974, without prejudice to the subsequent submission of a more comprehensive report based on the official transcript of the actual proceedings of the seminar which we hope to publish in magazine form within 30 days after the conference.

Very respectfully yours,

CAMILO D. VILLENA
(Assistant Cabinet Secretary)

In his capacity as PHILJAJFA Executive
Vice-President and Chairman, Conference
Executive Committee

RECORD AND SUMMARY OF THE
CONFERENCE/SEMINAR

1. The First Nationwide Conference/Seminar of government officials and employees who had undergone and successfully completed technical training or study in Japan was conducted on March 18, 19 and 20, 1974, at the City of Manila, Philippines. It was organized and sponsored by the PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION on the theme "THE EVALUATION AND EFFECTS OF THE TRAINING IN JAPAN AND ITS RELEVANCE TO THE NEW SOCIETY".
2. Highlights of the discussions during the conference/seminar were focused on urgent matters involving national development along announced objectives for accelerated economic growth. Specifically, the areas of national development which were taken up refer to such important field as Education, including certain aspects concerning social development; Agriculture and Natural Resources, together with some of the features of the food production program, export expansion and import substitution projects; Public Works and other Infrastructure Projects; Science and Technology; Public Administration and Economic Development. These topics were discussed in five (5) separate sessions, with two (2) sessions per day.
3. Included in the Agenda of the Conference/Seminar were the previously announced seven-point objectives which may be briefly summarized as follows:
 - (1) To provide a friendly forum whereby delegates to the conference may informally discuss and exchange views on the conduct of development programs;
 - (2) To afford the opportunity for delegates to profit from each other's experiences and ideas in identifying current specific problems of development;
 - (3) To gain a clearer insight into the means of formulating solutions to these problems;
 - (4) To discuss how available resources are allocated and accorded priority to achieve maximum utilization;
 - (5) To clarify the specific roles of the delegates in assisting development goals;
 - (6) To explore the possibility of a fuller use and employment of returned trainees in development areas relevant to their training;
 - (7) To determine the feasibility of re-aligning or re-directing the efforts and activities of the PHILIPPINE-JAPAN FELLOWS ASSOCIATION to the various development projects of the government.
4. On the first day of the Conference/Seminar, March 18, 1974, two sessions were held. The first or opening session which was conducted in the morning, took up the subject on Education, including certain areas involving social development. Hon. Juan L. Manuel, Secretary of Education and Culture was the Guest Speaker for this Session. He was introduced by Mr. Jose R. Vergara, President of the Philippine College of Arts and Trades (PCAT).

PHILFEJA 10th ANNIVERSARY CELEBRATION COMMITTEE

Over-all Chairman:

Leocadio de Asis

Committee on Awards and Prizes:

Teopisto S. Tijam, Chairman
Caesar Y. Alzona, Co-chairman

Food & Physical Facilities:

Ditas L. Marquez, Chairman
Evelyn M. Tameta, Co-chairman

Program & Musical Presentation:

Mrs. Beatriz C. Laurel, Chairman
Mr. Roberto Ticzou, Co-chairman

Publicity & Souvenir Program:

Atty. Halim R. Abubakar, Chairman

Attendance:

Bayani I. Gutierrez, Chairman
Alma Bella Bautista, Co-chairman
Larry M. Azurin, Co-chairman
Lermy B. Concepcion, Member

Invitation, Reception & Protocol:

Leocadio de Asis, Chairman
Assisted by the Secretariat

Nippongo Speech Contest:

Jovenicio Torres, Chairman
Lacio Lim, Co-chairman
Albert Zenarosa, Co-chairman

Finance Committee:

Leocadio de Asis, Chairman
Rodolfo Alba, Co-chairman

Lecture-Forum Committee:

Caesar Y. Alzona, Chairman
Alma Bella Bautista, Co-chairman



THE PHILIPPINE FEDERATION OF JAPAN ALUMNI
(PHILFEJA)

TENTH ANNIVERSARY CELEBRATION

P R O G R A M

THE MANDARIN BALLROOM
Mukahi, Metro Manila
July 19, 1986

P R O G R A M

PHILIPPINE FEDERATION OF JAPAN ALUMNI (PHILFEJA)

9:30 — 12:00 Noon Board of Governors' Meeting, Asean Council of Japan Alumni (ASCOJA)

3:00 — 5:30 P.M. Lecture-Forum Open Forum

6:30 — 9:30 P.M. Dinner

OFFICERS AND DIRECTORS

Ambassador Jose S. Laurel III Adviser

Leocadio de Asis President

Bayani I. Gutierrez Vice President

Benjamin C. Laurel Secretary Treasurer

Albert A. Zenarosa Asst. Secretary Treasurer

DIRECTORS

*** Welcome Address

*** Speeches

*** Musical Number

*** Awards and Prizes

*** Closing Remarks

Caesar Y. Alzona Chairman & Acting President
Omni Ventures, Inc.
(Wartime Students)

Bayani I. Gutierrez President, Philippine-Japan
Fellows Association (PHILJAJA)

Alma Bella Bautista President, Philippine Association
of Japanese Ministry of Education
Scholars (PHILAJAMES)

Lucio Lim President, Philippine Cultural &
Technical Association of Returned
Overseas Scholars (PHILCULTAROS)

Albert A. Zenarosa President, Japan-Philippines Youth
Club (JPYC)

Gerry B. Sanvictores President, Philippine Association
of Japan Airlines Scholars
(PHILAJALS)

THE MANDARIN MANILA
(Ballroom)

